

技術フォーラム ニュース

講演会：欧米の建築設計の発注方式の実情と日本の今後の発注方式を考える

日時：令和元年 8 月 31 日（土）10:00～12:00

場所：港区立新橋生涯学習センター

講師：技術フォーラム原田敬美理事長（前港区長）
工学博士、技術士（建設部門）、一級建築士

講演の要旨

1 はじめに

日本で建築設計の発注方式を検討するための参考情報として、欧米を中心とした諸外国の事例について報告する。日本でもいずれは欧米のコンペを中心とする発注方式にシフトする可能性がある。NPO 地域と行政を支える技術フォーラムは発注条件書作成支援をさせていただくことができる。



2 調査方法

AIA(アメリカ建築家協会)の月刊誌、ニューヨークタイムズ、Builders(建築施工)などの専門誌を対象に概ね5年分の記事を調査した。その中で建築家(建築事務所)選定方法が記載されている記事を抽出し分析した。

3 アメリカの事例

14 事例あった。連邦政府発注 5 件、州政府発注 1 件、市役所発注 2 件、民間 6 件である。

連邦政府発注では、

1. ロンドンのアメリカ大使館。2 段階コンペで 4 人のファイナリストから 1 人を選定。

2. 連邦裁判所ユタ州ソルトレイク。
3. アリゾナ州マリポサ出入国管理事務所。45 案応募があった。
4. 第一次世界大戦 100 周年記念公園、ワシントン DC。2 段階コンペで 350 人の応募から 5 人のファイナリストを選定さらに一人を選定した。審査員は 6 人で、マサチューセッツ大学教授、デトロイト市都市計画局長、建築評論家、前ハーワード大学教授、歴史家、美術史家など様々である。
5. ワシントン DC のナショナル・モール公園。
州政府発注では、ルイジアナ州政府がスポーツホールと歴史博物館のコンペを実施。
市役所発注では、
1. ニューヨーク市警第 40 分署。デンマーク人建築家が選定された。
2. バルティモア市ウォーターフロント開発コンペ。オランダ人建築家が選定された。審査員は市民のコメントを基に 5 人の審査員が担当。
民間発注では、
1. ニューヨーク市にあるホイットニー美術館、
2. ロサンジェルス市にある現代美術館。オランダ、フランス、イタリア、日本の建築事務所の 4 者の指名コンペ。
3. ニューヨーク市の現代美術館はコンペで日本人の谷口吉生が当選。
4. ニューヨーク市の New Museum は日本の SANAA が当選。
5. ニューヨーク市のアートフェスティバルで国際コンペが実施された。
6. シアトル市での Land Art Generator で国際コンペ。300 案の応募で 28 案がファイナリストに選定された。
原田自身の体験で、20 年ほど前ハドソン川に面したピア 40 (40 番棧橋の再開発でニューヨーク市役所が国際コンペを実施し、原田もデザイン案を提出した。500 案程度の応募があり、原田案は当選しなかった。コンペは世界中誰でも自由参加できる。提出し

た A1 サイズの 2 枚の図面は返却された。オープンで親切、丁寧。

また、この勉強会資料準備中の 8 月 23 日ニューヨークタイムズに、ニューヨーク市立図書館（建築デザインも運営方法も世界的に評価されている）のインテリア改装の国際コンペが実施され、オランダのメカーノ建築事務所が選ばれたと記事があった。

4 アメリカ以外の事例

全体で 15 事例あった。国別で見るとイタリア 3 件、ロシア、フランス、フィンランドが 2 件ずつ、スペイン、オランダ、スウェーデン、カザフスタン、中国、台湾が 1 件ずつである。

建築種別で見ると、文化施設 5 件、大学施設 3 件、スタジアム 2 件、集合住宅 2 件、メディアセンター、公園、本社事務所が 1 件ずつである。

1. カザフスタンのメディアセンターはコンペでイタリア人。
2. モスクワのスコロコボ研究所（ロシア政府主導の都市開発）はコンペでスイス人、（国家機密が含まれる研究施設設計で外国人を採用するのは驚き）
3. ロシアのエカテリンブルグでドイツ人。
4. イタリア、ミラノ建築工科大学は卒業生で国際的に活躍しているレンゾー・ピアノ（関西空港の設計者）が特命随意契約で担当した。
5. スtockホルムの Boxen 文化施設はコンペでスウェーデン人。
6. フィンランド、ヘルシンキ工科大学学生センターはコンペでフィンランド人、レイマ・ピエティレ（原田は学生時代ピエティレにインタビューした Waseda Architecture1972 年）。
7. 中国 Taiyuan 美術館では 2 段階コンペで 4 人のファイナリストの中から Cohen が選定された。（中国でも欧米式の 2 段階の国際コンペ）。
8. パリ、ラヴィレット公園。国際コンペでスイス人が選定され 21 世紀の公園を目指した。
9. スペイン、バルセロナのアリーナ。コンペでアメリカ人が選定。（審査員は FC バルセロナ関係者 5 人、カタルーニャ建築大学 3 人、バルセロナ市議会議員 1 人、全員一致で当該者を選定）。
10. イタリアの企業の本社ビルの建築家をコンペでイタリア人。
11. 台湾の台南市公共住宅でコンペ。オランダ人が選定。
12. ナポリ、科学都市は設計コンペ。
13. パリの集合住宅で国際コンペ。中国人 MAD が選定。
14. ヘルシンキ中央図書館でコンペ、500 案の応募。
15. オランダ、ユトレヒト市集合住宅。コンペ実施。

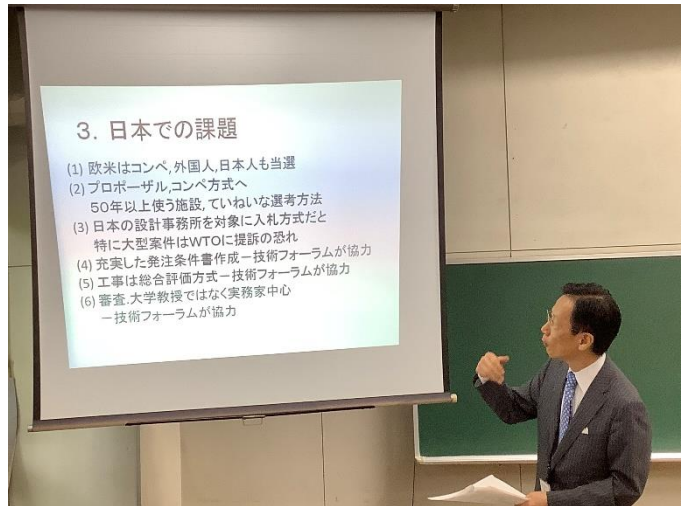
去る 4 月に火災で被災したパリのノートルダム再建はフランス文化省が国際コンペを計画中。

多くの国で国際コンペを実施し、外国人建築家が選定されている。特にロシアの国家プロジェクトのスコロコボ研究所設計でスイス人が選定されこと、中国や台湾でも国際コンペが実施されているのは注目すべきである。

5 日本での課題と技術フォーラムの支援体制

欧米（中国、台湾などでも）では建築家選定はコンペが主流である。公正に適任の建築家を選ぶためである。コンペは外国人にも開かれ、日本人も含め実施国以外の外国人が選定されることも多い。

日本で政府、都道府県、自治体が従来型の入札制度を継続すると、特に大型物件の場合 WTO(世界貿易機関)から日本の建築設計市場は閉鎖的で不公正、不平等と提訴されるおそれがある。



講演風景

また、建築や土木工事では現場の監理も重要である。建築設計者による公正・厳格な監理が必要である。

建築設計者選定はコンペかプロポーザル制度が好ましい。施工業者選定には入札による価格だけでなく他の評価項目も含めた総合評価方式が好ましい。

談合など不正を排除し、その施設に相応しい案を出せるデザイナー、その工事に最も適任の施工会社が選定されることが必要である。

発注条件書作成、事業の進行管理には専門的な知識、経験が必要である。ご照会あれば NPO 地域と行政を支える技術フォーラムがお手伝いさせていただきます。

(了)

地域と行政を支える技術フォーラム そのユニークな特徴

◎ 特定非営利活動法人(NPO 法人)です。

当フォーラムは、建設・環境・情報等をベースとした専門家が、地域住民のパートナーとして助言・提言を行うとともに、地方行政事業の必要性・効率性・有効性・公平性・優先性について、地方行政を事前・事後あるいは途中においてサポートすることにより不特定多数のものの利益に寄与することを目的として、平成16年に内閣府認証のNPO 法人として設立されました。

前記の目的を達成するため、当フォーラムでは次の活動や事業を行っております。

- (1) まちづくりの推進を図る活動
- (2) 環境の保全を図る活動
- (3) 情報化社会の発展を図る活動
- (4) 経済活動の活性化を図る活動
- (5) 建設・環境・情報等に関する相談・助言・提言事業
 - ① 講演会・講習会・セミナーの開催
 - ② ホームページ、メールによる情報提供
 - ③ 交流会の開催
- (6) 地方行政事業に関するサポート事業
- (7) その他、目的を達成するために必要な事業

◎ 多様多彩な人材の宝庫です。

当フォーラムは、工学博士、技術士(建設、上下水道、環境、農業、情報工学、電気電子、機械、化学、経営工学他)、一級建築士など、多様多彩な有資格者で構成されております。

◎ 十数年に及ぶ膨大な実績があります。

当フォーラムは、平成16年の設立以来、都内の市役所・区役所の他、北海道、青森、山形、福島、新潟、栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、神奈川及び静岡の各道県内市役所などにおいて、建築・土木・上下水道・環境・通信・情報・電気・機械各分野の工事監査等に伴う技術調査や、技術職員研修、管理職研修、監査委員研修の実施などに精力的に取り組んで参りました。このため、他に類を見ない膨大な実績を有しております。

この他、関係書籍の出版や、講演会を年に4回継続的に開催するなど、有用な情報の発信にも積極的に努めて参りました。



NPO 法人地域と行政を支える技術フォーラム 編著

◎ 品質の確保には組織的かつ継続的に取り組んでいます。

当フォーラムには、工学博士、技術士(建設、上下水道、環境、農業、情報工学、電気電子、機械、化学、経営工学他)、一級建築士など、第一級の人材が集っております。

しかし、建築・土木・上下水道・環境・通信・情報・機械各分野の工事監査等に伴う技術調査では、これを的確に行って高品質な結果報告書を作成するには、実務経験が絶対に欠かせません。

そこで当フォーラムでは、技術調査を初めて担おうとする者には、経験豊富な者による実際の技術調査への陪席を二回以上経験することを義務付けております。また、作成した結果報告書は、経験豊富な二名の校正担当者による校正を受けることを義務付けております。

このような品質の確保に向けた取り組みは、当フォーラムの設立当初から今日に至るまで、組織的かつ継続的に行って参りました。このことは、他に類を見ないものです。

◎ 情報漏洩の防止は組織を挙げて徹底しています。

当フォーラムでは、工事監査に伴う技術調査等で知り得た情報が漏洩しないよう、関係書類の細断による破棄や、第三者に傍受される虞のある会話やメールにおける具体的な言及の禁止を徹底しております。

◎ 研修講師は当フォーラムにお任せ下さい。

当フォーラムは、官公庁等における技術系管理職経験者やプロジェクトマネジメント経験者、工事等発注業務経験者を多数擁しております。何よりも、当フォーラムの理事長は、工学博士、技術士(建設部門)及び一級建築士の資格を有する前港区長です。そこで、当フォーラムでは、毎月開催する例会や四半期ごとに開催する講演会において、自治体が直面する課題の把握やその解決策の研究に努めております。このような積み重ねの中から、「耐震技術と耐震対策」、「監査の役割と使命」、「都市計画」、「省エネと創エネ」、「技術プロジェクトのマネジメント」、「談合を許さない発注者のエンジニアリング」、「性能仕様書による発注業務の劇的な改善」、「情報セキュリティ」、「工事の監督と検査」、「建物や設備の維持管理」など、技術職員研修、管理職研修、監査委員研修に適した多彩な研修テーマをご用意しております。また、当フォーラムは、数多の技術分野の有資格者で構成されていますので、全くオリジナルな研修テーマについても、ご要望に応じて創り上げることができます。

◎ 技術コンサルティングも承ります。

当フォーラムは、技術コンサルティングも承っております。上記の研修講師が有する高度かつ専門的な知見を、自治体の技術プロジェクト運営支援や発注業務支援などに直接活用して頂くことができます。特定の事業に係るスポット契約や期間指定の契約など、多様なご要望にお応えできますので、まずは御気軽にご相談ください。

編集後記

当フォーラムでは、四半期ごとに開催している講演会の内容を広く皆様にお知らせすることを目的に、年に4回、「ニュースレター」を発行しております。この秋季号では、「欧米の建築設計の発注方式の実情と日本の今後の発注方式を考える」を特集致しました。これは、令和元年8月に開催した講演会における、当フォーラムの原田敬美理事長による講演内容です。

ニュースレターのバックナンバーは、URL(<http://www.efasca.jp/forum.htm>)でご覧頂けます。

今後とも、皆様方の声をもとに講演内容を考えていきたいと存じます。これからの講演内容についてのご要望がございましたら、ぜひ、下記の当フォーラム事務局までお寄せ頂きますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人 地域と行政を支える技術フォーラム

電話 03-3403-2325

メール info.efasca@efasca.jp

ホームページ <http://www.efasca.jp/>

〒106-0032 東京都港区六本木 3-14-9 妹尾ビル4階

理事長 原田 敬美